

大麻小学校の特色

1. 学校の顔づくり事業①

◎「学校支援ボランティアの活用及び拡大」を図る実践

■ねらい

1. 地域の教育力（人材、施設設備等）を生かすことによって、学校の教育活動の活性化を図る。
2. 家庭、地域と学校との連携強化と地域に開かれた学校づくりを目指す。
3. ボランティア活動に対する理解を深める。

■活動内容

- ①図書ボランティア「くろくん」による図書整理・図書室の飾りつけ
- ②読み聞かせボランティア「そらまめくん」による本の読み聞かせ
- ③ベルマークボランティア「麻の葉ボランティア」の集計作業
- ④登下校の見守り隊活動
- ⑤学校支援ボランティアの活動（プール監視、グラウンド雪山・スキー学習補助）



2. 学校の顔づくり事業②

◎「生きる力」を育むボランティア活動の実践

■ねらい

- ・児童会活動やJRC活動等に取り組むことにより、子どもたちにボランティア活動を身近なものとする。

■活動内容

- ・児童会活動とJRC活動とを融合させながらボランティア活動の実践を継続している。

■具体的な活動

- ・ゴミ拾い運動・校内ボランティア清掃活動 等

3. 全学年で食の指導

給食センターと連携し、栄養教諭による食に関する指導を行っている。給食時間を中心に、教科や特別活動等でも児童に食生活への関心を高める指導を展開している。



4. 包括的性教育

1年生から6年生まで系統的に年に2回の性教育週間を設けて性教育を行っている。江別市立病院の助産師を講師に1～3年生は特別授業を行った。



5. 経営プログラムの実践

年間を4期に分け、学習・生活のリズムと「生きる力」を育み、教育目標の実現を図る「大麻小デザインマップ」（経営プログラム）による教育活動を進めている。各期の指導目標に応じ、発達段階を考慮しながら見通しを持って指導に当たり、反省、評価を受けて次期への指導に生かすなど継続した指導を行っている。

6. JRC加盟校

昭和41年青少年赤十字社（JRC）に加盟。児童会の声かけによる古着回収や校内清掃活動、校外清掃などの取組を中心に、ボランティア精神を養っている。



7. 充実した読書活動

低・高学年それぞれの図書室があり、学年に応じた本が収納されている。日常的に朝の時間に読書の時間を設け、月1回程度のPTA図書ボランティアの読み聞かせによりさらに充実を図っている。



8. 九九検定・たしひき検定

学力向上の取組の一つとして、担任外の教職員が検定を行っている。児童のやり抜く力や課題に立ち向かう力を身に付けさせたり、たくさんの教職員が合格を称えることで自己肯定感を高めたりする取組にもなっている。



9. 特別支援教育

知的、情緒、弱視学級を開設している。一人一人の発達段階、障害の程度等、児童の実態に応じて個別指導計画を立て、自立に向けた支援を図るべく、適切な教育を行っている。特に、将来の社会参加を展望し、必要な生活能力や社会性が身に付くよう、交流教育の取組を多様に展開し、充実させている。

